

平成 19 年度・平成 20 年度
～「実践型人材養成システム」普及のための地域モデル事業
実施団体好事例集～
【②社団法人千葉県情報サービス産業協会（システムエンジニア）】

○モデル事業導入にあたって

千葉県情報サービス産業協会は、IT 業界における実践型人材養成システムを普及させ実践的な能力および技術を兼ね備えた IT 技術人材を育成することを目的として、当該モデル事業に取り組んだ。

事業実施にあたっては 1 年目事業として推進委員会を設置し企業内の教育担当者を委員として任命するとともに教育訓練機関に支援・協力をいただき毎月委員会を開催した。委員会においては訓練カリキュラムや訓練の評価体制などについて審議を実施しカリキュラム等の完成に至った。2 年次目においては訓練実施の検証をし、フォロー、改善等を実施することとした。

○企業におけるメリット

- ・企業にとって将来の中核基盤の人材の育成の重要性が増す中ではあるが、中小企業等で訓練体制を個別で確立することは困難な状況である。
- ・そのような中で関係機関からの指導・援助及び国の助成を活用し、実践型人材養成システムを実施することができた。

○モデル事業実施（訓練実施）における好事例

〈教育訓練機関講師から〉

- ・訓練生は Off-JT 開始のころは、与えられた事のみをこなす程度であったが訓練を重ねるにつれ、自ら問題点は見つけ解決していくという重要性に気づき積極的になった。
- ・グループ討議などで発言も増え、納得しあうまで議論をするようになるとともにそのような関係を通じ良い人間関係が形成されて行くのが感じられた。
- ・同業他社の方と肩を並べて学んでいくというのは滅多にない機会。この経験は、将来、絶対役に立つと思う。

〈訓練生から〉

- ・技術的な講義は難しかったが周りに助けられ、システムをひとつ完成でき

たことで、視野が少し広がったように感じ、大きな自信となった。

- ・ 時間より早く課題が出来たので、グループで見直しをしていたら「そう言うことが自主的に出来るのが社会人」と、講師の方からほめて頂いた。気づかないうちに社会人としての自覚が出てきているのかも知れません。
- ・ 企業会計やプレゼンテーションの講座は、今まで経験がなかったので大変でした。その分得るものも大きかったです。他社の方とのコミュニケーションも最初はぎこちなかったが、最終的にはずいぶん仲良くなることが出来ました。

〈訓練実施企業から〉

- ・ 一般的な IT 業界の新人研修ではプログラミングやプログラム工程の下流工程が主流となるが当該システムにおいては、提案や要件定義の上流工程も組み込まれており体系的な学習が受けられることが魅力である。当該訓練を受講することにより社外の受講生の刺激を受けながら成長することが期待される。

○これから取り組む企業の方へ

モデルカリキュラム等の策定に当たっては、独立行政法人雇用・能力開発機構の千葉センターと何度もすりあわせを行いました。

新規学卒者にとって当該訓練を通じ座学で学んだことが現場では教科書どおりに通用しないことも十分実感でき、現場で起こっていることを実体験し学んだこととのギャップをどのように埋めていくのかがOJTのテーマであることを訓練受講生には認識してもらったものと考えています。

IT 技術者は、IT 専門スキル、人間関係、業務遂行能力のバランスのとれた人材を育成していくことが求められています。本制度を活用して運用していくことが優秀 IT 技術人材の確保・育成ならびに業界の発展につながるものと確信しています。

なお、当協会では平成 22 年度から「実行委員会」（協会役員と教育訓練機関側で構成）を設置し、長期継続をめざした体制を整備します。また、訓練実施企業、訓練生は平成 21 年度に 16 社 63 名、平成 22 年度は 18 社 59 名（予定）、平成 23 年度も既に 60 名分の申込みを得ています。